



はまぐち節

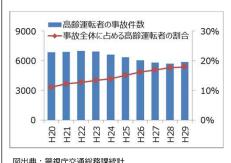
Vol.14(2019年5月)

発行: 国民民主党参議院比例区第18総支部

『豊かなモビリティ社会』=「誰もが安全で自由な移動を享受できる社会」 の実現に向け、はまぐち賦は「自動車ユーザーの視点」に立った制度変更を進めます!

「サポートカー限定免許」の創設 □政策1

高齢者の交通事故発生状況



- 高齢者の事故は増加傾向(社会問題化)
- 一方、地方では高齢者の移動手段(買物・病院への足)確保も重要

〈はまぐち誠の提案〉

- ⇒ 自動ブレーキやアクセル・ブレーキ踏み間違い防止機能を搭載した**サポー** トカー使用を条件とした、高齢者向けの新たな免許制度を創設
- ⇒ サポートカー購入者に対し、補助金交付/税制の特例を設ける

高齢ドライバーによる事故を減らし、移動の手段を確保

任意自動車保険料を所得税等の控除項目に追加

各種保険の所得控除適用の可否

	控除適用	国民の加入率
生命保険	\circ	約80%
地震保険		約30%
年金保険	0	約95%
自動車保険	×	約90%

- 若者の車離れ対策の一つとして、保有コストの低減は重要
- 20代の保険料は極めて高い(年間24~48万円:政府答弁)
- 生命保険料等は所得控除の対象になっている

〈はまぐち誠の提案〉

⇒ 任意保険料も所得控除の対象にしていく

車の保有に係る税負担を軽減し、若者の保有コストを軽減

■政策3 高速道路料金を引き下げる「定額制」の導入

高速道路料金の平均支払額

①年間料金収入	約2.3兆円
②年間交通量	約28億台
①/② =平均支払い額	約800円/台

※平成29年度NEXCO3社決算ベース

- 現行の高速料金は、これまで高速道路の整備(建設・更新等) に要した費用(約28兆円 = 国への借金)を、2065年9月30日まで に完済できるよう算出
- 今後も高速道路のメンテナンスには財源を確保する必要があり、 2065年以降に高速料金を無料化することは実質困難
- 1台あたり約800円の料金で年間の料金収入は確保できる(左図)

〈はまぐち誠の提案〉

- ⇒ 永久に有料化し、料金を引き下げる。
- ⇒ 具体的には、現在の距離制料金(走行距離が長いと料金が高い)を 見直し、どこまで利用しても定額制(同一料金、例:800円)を導入

自動車ユーザー負担の軽減、地域経済活性化にも寄与



上記に加え、 自動車関係諸税 のユーザー負担 軽減・簡素化 にも引き続き全力で 取り組みます!

一方で

必要となるインフラの割合 2023年 2033年 道路橋 |約39% |約63% トンネル|約27%|約42% 図出典: 国土交通白書2018「社会資本の老朽化の現状」

今後10年間で修繕が

今後メンテナンスが必要と なる道路等はどんどん増加

燃費向上・電動車普及により燃料 課税等の税収が年々減少する中、 社会インフラである道路等の 予算をどう確保していくか? が今後の検討課題です!